

事業所名

姫路市立こども発達支援センター(居宅訪問型児童発達)

## 支援プログラム

作成日

R7 年

2 月

25 日

法人（事業所）理念		ノーマライゼーションとリハビリテーションの理念に基づき、障害のある人たちのそれぞれのライフステージに必要なサービスを提供するとともに、障害のある人たちが地域社会の中でいきいきと生活できる支援を総合的に提供します。					
支援方針		○子どもが家庭で安全に楽しく過ごせるよう、家庭で取り入れやすい遊びを工夫しながら支援を行います。 ○保護者が子どもの理解を深め、安心して子育てができるよう、各家庭に合わせた支援を行います。 ○子どもの様子に応じて、外出時の安全確保の方法を考え通所型の児童発達支援などの体験利用の機会を取り入れていきます。					
営業時間		9 時	0 分	17 時	0 分	送迎実施の有無	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	○ご家族と一緒に遊びを体験しながら「心地いいな」「楽しいな」「大好き！」を増やし、子どもが一番安心できる家庭で、楽しく過ごす時間にします。 ○子どもの身体や健康に関すること、発達や子育てに関する悩みなど、訪問看護や訪問リハビリなどの在宅生活をサポートするスタッフとも連携し安心、安全に保育活動を行います。 ○保護者と相談・確認しながら、安全で安楽に楽しめる姿勢で保育活動に参加できるようにします。訪問する日の体調に応じて、時間や内容を柔軟に変更し、無理なく楽しめる時間となるようにします。					
	運動・感覚	○聞く、見る、触る、香り、など五感を使う遊びを取り入れます。 ○感覚遊びをとおして、さまざまな感触に気づいたり、好きな感触や感覚を取り入れたりして遊びを展開していきます。 ○体操や触れ合い遊びを通して、大人にしっかり触ってもらうことで自分のからだに気づいたり、安心して体の力を抜いて活動を楽しめるようにしていきます。					
	認知・行動	○子どもの豊かな経験となるように、季節に応じた遊びや伝統的な行事の体験を取り入れます。 ○一人一人の特性や育ちに配慮しながら、各歳児で経験する生活や遊びをその子にとってわかりやすく実感できる方法で経験できるように工夫し、子どもが意欲的に取り組めるようにします。 ○初めて経験することは楽しめる場面からスモールステップで丁寧に積み重ね「好き」や「知っている」を増やせるようにしていきます。					
	言語 コミュニケーション	○信頼できる大人といろいろな遊びを体験し、繰り返す中で「楽しい」「嬉しい」「ちょっとイヤ」など、心が揺れる経験ができるように工夫します。 ○自分の思いをいろいろな方法で表現し、受け止めてもらうことを重ねて、気持ちを通わせる心地よさを感じたり伝えたいという気持ちを育みます。 ○子どもにとってわかりやすい方法で伝えること、子どもが表出しやすい方法について、保護者とともに確認しながら意味づけていきます。					
	人間関係 社会性	○信頼できる大人に支えてもらいながら、家族以外の大人とも楽しく遊べる経験ができるようにします。 ○同年齢の子ども集団に参加する体験や保護者のネットワークが広がるよう、通所の児童発達支援とも連携を図りながら支援を行います。					
家族支援		保護者が子どもの特性や困り感を理解し、きょうだいも含めた家族みんなが生活しやすくなるように、それぞれの家庭にあった工夫できることを保護者とともに考えます。		移行支援		就学に関する情報提供や通所の児童発達支援への移行を見据えた体験利用など、安心して移行できるよう検討する段階から、移行後のフォローまで丁寧に行います。	
地域支援・地域連携		地域の関係機関と連携協力し、親子が健やかにあたりまえに地域生活を送れるよう支援します。		職員の質の向上		系統立てた内部研修の実施や外部研修を受講し、専門的知識を深めることや発達支援の専門性を高めます。また、定期的に多職種での学習会を行い、子どもの理解や多角的な視点を養います。	
主な行事等		伝統行事や季節をテーマにした保育活動を取り入れます。 気候や体調を確認しながら、戸外で過ごす時間も設けるようにします。					